

十日町雪まつり

1950 年、昭和天皇（1901-1989）が、雪国の人々が季節を楽しみ、雪の美しさに感謝するために、新しい冬の行事を作ること提案した。それ以来、十日町の人々は雪との友好的な関係を反映するために、さまざまな催しを考案してきた。

雪まつりでは、アートインスタレーション、ライブパフォーマンス、花火大会などが行われる。しかし、一番の見どころは、住民の手によって作られる巨大な雪像である。地元の学校、自治会、ボランティアグループ、企業、クラブなど、さまざまな団体によってチームが結成される。その年に決められたテーマに沿って、各チームが協力して雪像のデザインと製作を行う。技術、芸術性、コンセプト、努力などが評価され、賞が授与される。

十日町市には、冬のお祭りやイベントの長い歴史がある。その多くは 2 月に行われる。旧暦では、新年最初の満月がこの時期にあたるからだ。この満月の時期は「小正月」と呼ばれ、農村が翌年の豊作を祈る伝統的な時期である。豪雪地帯である十日町では、小正月の行事は、豊作と同時に雪の生命力を祝う行事でもある。また、雪国での生活を可能にする友情や協力の絆を強め、人々が集う機会も生まれる。